

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270903055		
法人名	社会福祉法人 南生会		
事業所名	グループホームハピネス		
所在地	千葉県船橋市古和釜207番地		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会福祉士ネットワーク・ヒューマンレインボー		
所在地	千葉県船橋市本町4-31-23		
訪問調査日	平成23年3月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境に恵まれ、隣接の果樹園にてお花や季節の果物(ブルーベリー・イチジク・こけもも・柿・みかん・ぶどう等)の採取が出来ます。</li> <li>・木造の平屋建て、自然なやさしい光が入り、暖かな環境です。</li> <li>・職員は明るく活気があります。</li> </ul>
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>建物内には2ユニットのグループホームとデイサービス併設されている。自然が多く残る緑豊かなところにあり、建物は周辺の里山風景と融和して自然を身近に感じる工夫があり、高い天井からは柔らかい光で共有空間を包んでる。また、共有空間と居室空間がほど良く設計配置されており、落ち着いた空間となっている。職員・ユニットリーダー・管理者が一体となって利用者が心おだやかな落ち着いた生活が送れるような居心地の良い場所づくりを実践している。職員は利用者一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が取り組まれ、明るく会話のあるホームとなっている。ハピネス新聞は利用者、家族から好評で、家族との関係作りを大切にしていることがアンケートから伺える。</p>
--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を事業所の理念とし、事業所の基本方針として地域密着型サービスの意識をふまえている。事務所に法人理念を掲示し理念共有の意識向上の努めている。	理念が事務所内に見やすく掲示されている。管理者は理念に沿って一人ひとりにあわせた支援ができるように、職員間で話し合いをもつことを大切に考え、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている、祭り、保育園、小、中学校の行事への参加、散歩時の挨拶、立ち話等行っている。	地域の畑を借りて利用者が草むしり、水やり等を行っている。地域の夏祭りや中学校の運動会に招待され参加している。他事業所との合同行事では地域の方や中学生が60名程参加した。中学生の体験学習の実施に協力している。法人内の保育園との交流も行っている等地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を招いた会議上で感染症予防や介護の方法など伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価で指摘を受けた事項、ご家族からのアンケート、事故報告等発表し意見を頂く事により、サービス向上に活かしている。	今年は年5回実施し、来年は年6回の計画を立てている。感染症についてなど適宜、必要と思われるテーマをきめて勉強会を実施している。	行事などに合わせて開催するなど利用者や家族が更に参加できる工夫を期待する。地元の民生委員や自治会の方が参加することにより、ホームの理解、協力体制が得られると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的には行われていないが、事故報告、質問等ある場合には、その都度担当者より意見を聞いている。	認知症高齢者GH連絡会への参加やメールで研修案内等の情報を共有している、市に職員配置や加算要件を確認したり、生活支援課担当者や待機者等の情報交換など連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で意識をして取り組んでいる。日中は原則、施錠はしていない。	玄関は職員が手薄になる入浴時や夜間以外は施錠しておらず、職員は「利用者への言葉がけ自己評価チェック表」などで確認し合っている。身体拘束をしないケアは、日々の中で意識して取り組みがされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者に対する態度、話し方、認知症を理解する為の話し合いの中で常に意識して行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる方については本人、又周囲の方と相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明を行い、質問等に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望、苦情に対しては、その都度対応している。又外部評価のアンケートに関しては家族会、運営推進会議にて発表し改善に取り組んでいる。	利用者・家族の意見や要望は入居時にきちんと確認している。利用者の日常の言動等で把握するように心がけている。家族からは行事や来訪の機会には積極的に声かけをしたりしている。これらを毎月のユニット会議にて反映する取り組みがなされている。	運営推進会議に利用者、家族の参加を増やし、意見、要望の反映出来る取り組みが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行われている会議、又日々の業務の中で職員の提案を反映させるようにしている。	新人は、毎月の「自己採点チェック表」から、管理者・ユニットリーダーは、職員とのコミュニケーションや業務日誌・フロアーノートから意見や提案を吸い上げ、法人責任者会議、ハピネス会議、ユニット会議にて検討し、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員に対しては人事考課を行っている。又、外部、内部研修の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議(法人)、グループホーム会議にて必要と思われるテーマについて研修を設けている。又日々の業務の中で介助方法等その都度トレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加、情報の共有を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接において、ご本人が見学し納得されるよう促している。又初期に関しては、特にコミュニケーションの機会を多くし、不安感の減少を図ると共に、ご本人の要望を取り入れられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせの時点より、相談や質問に応じている。又初期の段階では特に電話連絡を密にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に応じて得意な事や日々のお話の中から、職員が学ぶ機会を得ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族応じて、お墓参り、受診、散歩、衣替え等行って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関しては時間等の制限は設けず自由に行って頂いている、ご家族の協力を得て馴染みの場所へも行くようにして頂いている。又知人も気楽に足を運べる雰囲気である。	詩歌などの友人との交流や、近隣の美容院へ行くなど関係が保たれている。家族や友人との訪問、外出等には柔軟な対応が図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士話をしている時や何かをしてあげている時は、危険の無い限り見守っている。又コミュニケーションが難しい方でも孤立しないように声掛けや、職員が間に入りコミュニケーションを取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて相談を受け助言している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食べ物を初めとし、行いたい事、行きたい場所等お聞きし、出きるだけご希望に応じるよう支援している。	入居時に生活暦、趣味、希望、意向等を聴き取れるようにしている。日常生活の会話を大切にしており「常に利用者に寄り添うことが一人ひとりの意向の把握になる」と認識している。	家族に対してのユニット行事や利用者情報、伝達事項等が毎月のハピネス新聞で丁寧に伝えられており、アンケートからも好評です。一層の充実化と継続が期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活暦の作成を家族に依頼、今まで使用してきた家具、食器等をなるべく持ってきて頂くようお願いし、環境の変化が少なく済むよう家具の配置にも配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の変化や新たな発見が見られた場合、個人記録、日誌、申し送り、フローノート等使用し、全職員が把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意見やご家族の要望を伺い現状を踏まえた上で介護計画の実施に努めている。	本人・家族・職員とのアセスメントをもとに介護計画を作成し、朝・夕の申し送り・業務日誌・カンファレンスやユニット会議の内容などでモニタリング、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は毎日記録し、些細な変化、新たな発見も記入、情報の共有に努め、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度お話をし出来るだけ要望に応えられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア受け入れ、保育園、小中学校の行事参加等交流が行われている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院を基本としてご家族に説明、他の病院を希望する方に関してはそのように対応させて頂いている。	提携している総合病院や歯科医院の他にも、待ち時間、移動距離を考慮して皮膚科や内科を選定し、適切な医療受診を工夫している。入所前のかかりつけ医の継続受診も希望に応じて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務、健康チェックが行われる時に、変化、心配な事を伝え、場合によっては受診を行う。又看護師不在時も、何かあれば本部の看護師や併設のデイサービス看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、ソーシャルワーカー、時には医師と連絡を密に取り治療状況やリハビリの状況を伺い入院を長引かせないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームにおいて行える事、行えない事は入所時よりお話しし、その後繰り返し話し合いを行い、他機関とも連携を図り支援している。	ADLの低下で全介助状態になる、経口摂取が出来ない、特別な医療支援が必要等、ホームでの生活が成り立たなくなった場合は、他の施設や法人との連携で支援を手厚くしている。	看取りについて、入所時に本人・家族への説明及び文書の内容が誤解を受けられるように思われる。利用者、家族の要望、グループホームの求められる課題としても終末期のあり方の検討が図られることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症、緊急時対応の研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っている。地域との協力体制は特に行われていない。	消防署との協力により防災訓練が取り組まれている。夜間を想定した避難訓練も実施している。交番への利用者リストの提供が図られている。	災害時の地域との協力体制がまだ構築できておらず、今回のような大地震等に対応するために、種々な角度から地域との協力体制を築くことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方、声掛けには注意を払っている、職員間でも「今の声掛けは良くない」等話し合っている。	食事を摂りにくい方へのさりげない声かけや、その人に合わせた自然な対応が行われている。また、「利用者への言葉がけ自己評価チェック表」で職員相互の確認を行い、人格尊重とプライバシーの確保に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時にはまず本人の意思を確認してから行い、希望を聞き、可能な限り応じるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型の希望を聞き移動美容室による支援、又化粧品(口紅等)の購入目的の外出支援等行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ、テーブル拭き、野菜の皮むき、カット、味付け、配膳、後片付け等行って頂いている。	日々の利用者の体調を見ながら、無理のない声かけに配慮し、調理や準備の手伝いは、自然な参加を促している。食事時の音楽は利用者に合わせてゆったりと食事を楽しめる工夫が感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の摂取量に応じて行っている。水分摂取の少ない方に関してはゼリーを提供するなど工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の紅茶でのうがい、食後の歯ブラシ等個々に合わせて行っている。又訪問歯科の助言を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄表を作り、その方に応じた誘導を行っている。	排便の不安定な方の排便表はあるものの、業務日誌での排尿についての申し送りなどでチェックしているが、全ての利用者についての排尿パターン、習慣を活かした自立に向けた支援にまで至っていない。	排泄のリズムをつかむことでトイレ誘導するなど、自立に向けた支援の検討が望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩・運動・ヨーグルト・牛乳等個々に合わせて行っている。又必要に応じて医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯によっては限りがあるが、曜日指定は希望者のみ行い、他の方は自由に入らせていただいている。	午後の2時から4時までの間で、3日に1回の入浴が実施されている。看護師等により入浴前のバイタルチェックがされており、体調に合わせた入浴方法がとられている。利用者の希望の時間帯などの柔軟な対応を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はほぼ個人に合わせて行っており、不眠の際は温かい飲み物やお話を聞く等で対応している。日中は夜間にひびかない程度自由に休んで頂き、声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用などは直ぐに見られるようファイリングを行っている。又新たな薬が処方された場合申し送り、症状や変化した場合状態によっては医師に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の役割としては、その方に応じて掃除・洗濯物たたみ・調理・等家事一般に関して行っており、余暇の時間を使い趣味の生け花や、ゲーム等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物は日常的に行っている、又バスハイクとして各自行きたい場所の聞き取りを行い外出計画を立てていたが、今年度は新型インフルエンザの影響により実施出来なかった。	今年はインフルエンザや疥癬、夏の暑さでの熱中症のために外出の計画が予定通り実施できず、成田山や浅草に希望者で外出した程度だった。、新年度はバスハイク、お花見、保育園交流等一人ひとりの希望を把握した外出支援を計画している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方に関しては、おこづかいで買える物は支払いをして頂いている。そうでない物は立替にて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるよう、玄関に設置してある。手紙に関しては、はがき等の購入からポストへの投函を行って頂く様支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な日差しに関しては、カーテンやブラインドで調整を行っている。又皆様と一緒に手作りし季節ごとの装飾品をかざりつけている。	天井の高い居間は、間接照明がうまく配置され空調も管理され、居心地の良い空間が維持されている。壁面には利用者が間違っ触れてしまいそうなスイッチ等は見栄え良く扉ふうにかバーがされ、細かい心遣いが感じられた。ユニットごとには無料電話が設置されている。家族、友人等の繋がりを大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一面の広いリビングではあるが、テレビ前のソファ、テーブル席、中庭を見ながら籐の椅子に座る、等されている。又時には玄関のベンチに座られている事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時ご家族に、出来る限り現状を変えないよう、家具や配置を同じようにして頂くようお願いをしている。又食器も今まで使用していたものを持ってきて頂く様お願いしている。	備え付きのクローゼット、洗面台、エアコン、空気清浄機とベッドがあり、入所者それぞれに持ち込んだ仏壇、本箱が置かれている。家族とのつながりを感じられる曾孫の写真、誕生日を祝う色紙などがほど良く掲示されており、居心地の良い居室の配慮が伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は解る様に表示や目印がされてある。		